

令和2年度 錦城東小学校 学校経営計画

～子どもたちが通いたい、保護者・住民が通わせたい、教職員が働きたい学校づくり～

1 校訓 「やさしく さとく たくましく」

2 学校教育目標 「自分も人も大切にできる きんひがの子」

～みんなが幸せを実感できる学校を目指して～

3 目指す児童像

「やさしく」

・自分も人も大切にできる子

(自己有用感・自己肯定感がある、人のいたみがわかる、思いやりがある、友達となかよくする、人に親切にする、人の役にたとうとする、等。)

「さとく」

・主体的、協働的、対話的に学び、賢くなろうと努力できる子

(人の話を最後までしっかり聞く、進んで学習に取り組む、友達と力を合わせて課題を解決しようとする、あきらめず根気よく努力する、等)

「たくましく」

・心と体の健康力の高い子

(明るく元気にあいさつをする、進んで運動したり外遊びしたりする、つらいことやいやなことがあったらだれかに相談できる、少々のことではへこたれない、等)

4 具体的な取り組み

(1) 教育活動に関する重点努力事項

① 確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成

～知・徳・体のバランスのとれた児童生徒の育成～

・「主体的、対話的で深い学び」の実現に向け、目指す授業像を明確にししながら、授業改善を進め、児童に学ぶ喜びや楽しさを与える。

・考え、議論する道徳学習の充実を図りながら、児童の心に規範意識や思いやり、自己有用感を育てていく。

・体を動かして遊んだり、運動したりすることの楽しさを存分に体験させるなどして、健康で丈夫な体作りを行う。

② どの子も安全・安心に学べる学校づくり

・児童の安全を最優先にする危機管理の徹底を図る。

・いじめ根絶に向け、質の高い道徳教育や人権教育を実践するとともに、小さなトラブルであっても迅速に組織的に対応し、いじめの未然防止に努める。

・日頃からのコミュニケーション、観察、面談等によって、児童との絆づくりを行い、気になることがあれば早期に対応し、不登校の未然防止に努める。

③ 子どもを勇気づけることのできる教師としてのスキルアップ

- ・子どもたちが当たり前のことのできていることを見つけて「I メッセージ」でほめる、不適切な行動に過度に注目せず適切な行動を勇気づける、子どもたちの悩みや失敗に寄り添う、などアドラー心理学に基づいた勇気づけの教育実践を積み重ねる。
- ・生徒指導の三機能（自己決定の場作り、自己有用感・自己肯定感を高める声かけや仕掛け、共感的理解）を生かした、愛のある温かい授業を実践する。
- ・クラス会議の実践を通して、子どもたちに自分たちでクラスの課題について話し合い、解決策を考えさせながら、対等感・自己肯定感・共同体感覚・協働的問題解決力等を育んでいく。

(2) 学校経営に関する重点努力事項

① 組織的な学校運営 ～3つのワークを柱として～

I ネットワーク

- ・校長・教頭・主任・教職員という校内の縦のネットワーク、主任間・学級間・教職員間という横のネットワーク、また学校と保護者・地域・外部機関・市教委等との校外のネットワークなど様々なネットワークを大切にし、双方向の情報伝達を行い、連携を図りながら、信頼関係を構築する。

II フットワーク

- ・学校内外の情報に常にアンテナを高く張り、学校運営上の課題、保護者や地域からの要望、職員個々の悩みなどにスピーディに対応する。

III チームワーク

- ・日頃からの職員間の緊密なコミュニケーションを大切にし、職員個々の持つ資質・能力・良さを十分に発揮できるようにするとともに、悩みを一人で抱え込まず、職員全体で共有し同僚性を高めていく。そして、困難な課題にも、学校全体で協働し、乗り越えていける職員集団【チームきんひが】を創り上げる。

② 同僚性・協働性の高い職員集団づくり

- ・職員室の一角に談話スペースを設け、いつでも気軽にリラックスして、職員がコミュニケーションを図れるようにする。そして、学習指導上・生徒指導上の課題や悩みなどを共有したり、相談したりできるようにする。
- ・談話スペースには、ホワイトボードを置き、放課後や隙間の時間に、ミニ OJT やいつでも・どこでも塾（若プロ）が開けるようにする。

③ すべての教職員がやりがいを感じながら、生き生きと働ける学校づくり

～多忙化改善、働き方改革の推進～

- ・校務の重点化、焦点化、効率化、協働化等を図りながら、業務改善・多忙化改善を推進し、時間外勤務時間を減らしていく。そして、教職員一人ひとりが調和のとれたワーク・ライフ・バランスで生き生きと働ける学校づくりを行う。